

シリーズ

気象とお天気の話

あなたが感じる「季節のことば」

来月（12月）7日は、二十四節気の大雪（たいせつ）です。暦の上では『いよいよ大雪の降る頃』となりますが、実感としては『スキー場に雪の積もってほしい頃』ではないでしょうか。二十四節気は、もともと中国で生まれたものであり、日本の気候風土に合ったものもあれば、時期が少しずれていると感じるものもあります。また、時を経るにつれ、季節の移ろいに



なっているなどと思われます。

そこで、日本気象協会は、現代の日本の気候風土や日本人の慣習になじむ、あなたが感じる「季節のことば」を募集することになりました。現代人にとって身近な生活の指標となることばを提供したいと考えたのです。あなたが感じる「季節のことば」は、2012年12月21日まで、ホームページ（<http://24setuki.com/>）上で応募いただけます。応募いただいたことばを取りまとめ、2013年春に公開する予定です。興味がありましたら是非ご応募ください。あなたの感じる季節のことばをお待ちしています。

日本気象協会 小田 美穂

会員名簿	(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)
理事長	大島慎子(筑波学院大学学長)
顧問	丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長	岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元㈱JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
	加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長	杉行夫(理事)、事務局次長:堤るり(理事)
支部長	片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、

【団体会員】（2012年11月26日現在）

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、㈱朝日ネット、(有)青葉、㈱アトルックス、㈱アルビオン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、㈱伊勢丹、富山県射水市、㈱井六園ワルト、岩田地崎建設(株)、㈱えんれいいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、㈱大林組、隠岐の島町(島根県)、㈱奥村組、小田急電鉄(株)、㈱小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、㈱大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、㈱九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、㈱熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、㈱グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、㈱耕人舎、佐川アドバンス(株)、㈱サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、㈱JAL-DFS、㈱JALUX、㈱JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、㈱センインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、㈱銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、㈱ガイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、㈱大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成有楽不動産(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、㈱高商、高砂熱学工業(株)、㈱竹中工務店、㈱丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、㈱哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカッツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、㈱西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、㈱日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、㈱日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、㈱日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、㈱ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、羽田旅客サービス(株)、東日本旅客鉄道(株)、㈱日立ビルシステム、㈱日立製作所、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、㈱パロクジャパンリミテッド、㈱フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、㈱ホテル小田急、㈱ホテルメロポリタン、前田建設工業(株)、㈱ホテルマルックス、マイナモールディングス(株)、㈱まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、㈱山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、㈱ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

「ゴルフできるのなら、東北被災地の手伝いに行こうよ」と宮崎光司氏に誘われ、長靴と鉄板の底敷き（古クギ踏み抜き防止用）、厚手の手袋、マスク等々ボランティア七つ道具をそろえボランティア保険にも加入したが、結局はこれまでのところ行かず仕舞。2面で紹介したような同年代の頑張りを見て、汗顔の至りである。同時に、彼が指摘するように日本人の飽きっぽさも痛感させられている。さらに、被災地復興を横目に政争に明け暮れる永田町に、腹立たしさを覚える。

政界は、12月16日総選挙という日程が決まったが、自民党が政権党に復活するのか、石原・前東京都知事が率いる「太陽の党」と橋下・大阪市長の「維新の会」が台風の眼となり、思いがけない政権が誕生するのか、久しぶりに興奮させられる政局である。筆者は、今年の正月のある会の新年会で、暮れの総理は？という問いに「安倍晋三」と答えた。“冗談から駒”になりそうな気配もある。

もっと冗談度を高めれば、『石原慎太郎総理』アリかも。

いずれにしても、日本を取り巻く環境は、日中の関係悪化、原発ゼロ問題ははじめ、まさに問題山積だが、まず新政権に取り組んで欲しいことは、宮崎氏と同じく「東北被災地の復旧、復興を最優先に」である。（加納）

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION	
東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙	第86号 発行日2012年11月26日
Contents	
2013年のJN協会。加賀市でフォーラム	1
北陸新幹線と観光。被災地復旧を手伝う	2
震が関情報。鉄道と観光	3
アメリカこぼれ話。モンテカルロのタペ	4
「大聖寺」はどこ？ 死海に浮かんで	5
城下町と観光(高崎)。NEWSPOT	6
俳句と観光。観光立国セミナー	7
気象とお天気。編集後記	8

来年も活発な活動を！ J N協会の企画委員会の方針



JAPAN NOW観光情報協会(大島慎子理事長)は11月14日、東京・麹町の「海事センター」で、理事12名が参加し企画委員会（実質は理事会）を開き、来年の活動方針を話し合った。

主な内容は、

- ① 2013年の定時総会は5月24日（金）開く。
- ② 「観光立国セミナー」（座長・寺前秀一理事）は、原則として月1回開催し、講師の人は世話役の杉行夫・JN協会事務局長中心に行うが、理事・会員から自薦・他薦を受ける。
- ③ 「観光立国フォーラム」は、東京での5月総会および名古屋市で行うことを確認。さらに、海事協会と共催での「海事・観光立国フォーラム」開催実現の道を探る。また、九州、金沢、広島など各地支部長との連携を深め、全国展開を検討する。
- ④ 「JN情報紙」は、隔月発行を原則とし、理事・会員の投稿増強による内容充実を図り、かつインターネットの活用で相互補完を進める。
- ⑤ 「見学会」は、くらしのリサーチセンター主催の行事に積極的に参加するとともにJN協会独自の見学会を企画する。

こうした事業を推進、拡充するためには、会員増強を図ることが重要で、理事中心に働きかけを強めることを確認。また、観光、都市問題等に詳しい理事らが観光学部をもつ大学へ出向いてセミナーを開く、各国大使館と連携し大使館での「アウトバウンドを語る」会合を開き若い人たちの観光推進への関心を深め。ひいては会員増強につながる道を探っていく、などを話し合った。

北陸新幹線開業に向け、須田氏が講演 加賀市で「観光立国フォーラム」開く



2015年春に予定されている北陸新幹線の金沢延伸に、沿線や近郊の観光地の期待が膨らんでいる。

こうした状況を踏まえ、加賀市、加賀市観光交流機構とJAPAN NOW観光情報協会は、10月22日（月）加賀市民会館大ホールで「新幹線と北陸の観光」のテーマで、須田寛J R東海相談役（JN協会副理事長）が講演した。会場は約200人の聴衆で、ほぼ満員だった。

開会に当たり、寺前秀一・加賀市長（写真）が「私はJN協会発足当初から理事を務めており、JN協会が全国で開いている観光フォーラム第一号は金沢で行った。北陸新幹線は、金沢から敦賀への延長も決まり、加賀温泉駅（仮称）も10年後にはできることを期待している」と挨拶、つづいてJN協会北陸支部長の魚住隆彰氏（北陸鉄道相談役）が「お配りしたJN紙の最終面に会員名簿が出ているが、業種を網羅しビッグネームが揃っている。観光は、このように幅が広い業界が関係し盛り上げている。なかでも鉄道は、その中核的存在であり、今後とも観光振興に努力していく」と決意を語った。

講演の後、JN協会理事長の大島慎子・筑波学院大学学長が、「寺前市長は、全国でも数少ない観光学博士で、これも全国に先駆け、加賀観光フィールド大学を企画、実施されている。多くの大学生が参加し、若い力で観光を盛り上げてくれることを期待している」と閉会の辞を述べた。（須田氏の講演概要は2面に）



特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW

観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル3F
電話 03(5304)9500
FAX 03(5304)5632
E-mail info@japannow.org
Home page http://www.japannow.org

発行人：大島慎子(JN協会理事長)
編集長：加納 隆(JN協会副理事長)
発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

北陸観光に追い風の新幹線

地元は豊富な観光資源を活かす準備を！

須田寛・J N協会副理事長（J R 東海相談役）

新幹線が開通することで多くの人が訪れ、観光振興に役立つばかりでなく地域の活性化をもたらすことは、最近で言えば九州新幹線、古くは山陽新幹線で潤い、いまでも効果が持続している岡山県・倉敷を見れば、よくわかる。



新幹線開通がもたらすメリットは、その工事に伴い地元に落ちるカネなどの経済効果、時間短縮による価値、観光客など交流人口の増加、それらが複合して地域総合開発効果が挙げられる。

さて、ここ加賀に関していえば、いくつかの温泉地を持つうえに、九谷焼など伝統産業の集積もあるし、加えて寺前市長と言う観光問題の大家（観光学博士）をリーダーに持つ幸運に恵まれている。寺前さんが始められた「加賀観光フィールド大学」は、未来の観光のリーダーを育てると言う意味で、大きな意義がある。大変しみなプロジェクトである。

トライアングル観光目指せ

いま、関東と北陸（金沢）は、新幹線と在来特急乗り継ぎで4時間近くかかる。これが、東京一金沢直通で2時間20分。関西からも在来特急で、そのくらいかかるが、関東一金沢（加賀）―関西が、正三角形の形となり、トライアングル観光圏となる。少し足を延ばせば、観光資源たっぷりの能登や越前の福井もあり、相互の結びつきを促進すれば、立派な広域観光ルートができる。加賀温泉郷は、その拠点になりうる存在である。

マルチ観光も可能

観光のスタイルは、今後ますます多様化する。かつては団体旅行主体で、温泉と大きなホテルと海の幸を主体とした豪華な食事と言うワンパターンだった。今や家族や友人を中心とする、家族あるいは小グループ中心になりつつある。つれて、旅行の目的も様々となっていく。金沢のような歴史・文化・伝統産業都市、能登はキリコ祭をはじめとする伝統行事・漁業・民宿、加賀には各種の温泉がありメディカルツーリズム（温泉療法）、九谷焼や山中漆器作りに挑む体験旅行も可能だ。こうした地域の特色を活かす『マルチ観光』が、狙い目だろう。

迎える側の工夫も大切

これからの時代は、定住人口は減る一方となる。従って、地域の活性化、振興を図るためには、交流人口を増やす以外にない。そのキーポイントが観光だろう。そのためには、地元の人たちのホスピタリティーが重要だが、ハード的には新幹線駅を起点とする二次輸送網の強化・充実、行きたくなるような地域情報の発信が欠かせない。

観光問題に造詣が深い寺前市長中心に、加賀観光ひいては北陸振興の先頭に立っていただきたい。

もっと東北被災地を手伝おうよ

支援ボランティア体験記

東日本大震災・大津波から1年8カ月、被災地への支援ボランティアが大幅に減り、支援ツアーを中止する旅行会社も続出している。以下は、毎月のように参加し、いまボランティア復活を願う75歳男性の支援体験記の要約である。

このボランティアをする動機と言いますかそのキッカケは震災直後の仙台空港を襲う津波の映像でした。

私は、40数年前に仙台空港に勤務していて近くの農家に下宿していましたが、その農家が津波に巻き込まれた事を知りました。何度も電話を掛けたのですが繋がりようもなく心配するだけの毎日でした。

被災地に何かお手伝い出来る事は無いかと探してるうち、ボランティアバスツアーが有るのを知り参加する様になりました。私が最初に参加したバスツアーは昨年6月上旬、東松島市でのボランティアでした。

千葉県佐倉市を夜10時半に出発し、翌朝、現地ボランティアセンターに入り登録し、その日の作業の指示を受けて現場に行き作業後その日に帰って来る行程で作業は側溝の泥のかき出しと、商品（上下水道工事の部品と電気部品）の水洗いでした。次は、7月に石巻市に同じ行程で参加し、8月には酒々井社協のいわき市への日帰りのボランティアに参加しました。作業は個人宅の瓦礫・土砂の撤去でした。その後も、高齢の友人たちに「ゴルフする体力があるなら、被災地のお手伝いに行こうよ。1000年に一度と言われる地震・津波の爪痕を見るだけでも意味があるよ」と声をかけ、参加し続けました。

帰着後は、参加者全員で手配して冬物衣料や暖房器具の提供を呼びかけ、ご近所の方や知人、友人から段ボール箱50個以上を支援物資として届けたこともあります。

今年8月と9月には、石巻市の大川小学校の遺体捜索に参加し、遺骨を見つけました。

現在、ボランティアに参加される方が非常に減って来ましたが、今後ともまだまだ継続的に支援しなければならない場所が沢山あります。

ご存知の方は多いと思いますが、日本を良く研究され、日本びいきでとうとう震災後日本国籍を取られたドナルド・キーンさんが、記者会見で「率直に言うと、日本人にがっかりしています。力を合わせて東北の人を助けたいと思っていました」と語っていました。

被災地に行くと、其処ここに瓦礫の山を見かけます、復興支援に欠かせないこの瓦礫の処理を他の自治体が引き受けると手を挙げると、すぐに地元住民が反対反対と騒ぎ始める状態を見ると、キーンさんならずとも、がっかりしますし日本人として悲しくなります。

必ず起こるであろう直下型の関東大震災あるいは東海、南海、東南海3連動の巨大地震（南海トラフ巨大地震）の災害は東日本大震災を上回るであろうと言われて居ますが、その際に何が起こり、何をすべきか、何が大切かをこの大震災が教えて呉れていると思います。

皆さんも、ぜひ被災地に足を運び、その現状を見聞し今後の対応に役立てられる事をお勧めします。

宮崎 光司（元日本航空社員）―要約は加納



写真左が宮崎氏

NPOから提案します

俳句と観光

寺前 秀一・J N協会理事（加賀市長）

終戦忌 昭和は遠くなりにつけり よみ人知らず
加賀市長として毎年、戦没者慰霊式に参加します。その時に「終戦忌 昭和は遠くなりにつけり」と俳句をひねってみました。もちろん、独創ではありません。

獺祭忌 明治は遠くなりにつけり 志賀介子
降る雪や 明治は遠くなりにつけり 中村草田男
を承知の上の一句でした。「獺祭忌」と「降る雪や」とを比べると、ほぼ七割が同一です。俳句は集団制作の芸術で、俳句の共同体のなかでは添削という学習法が慣行としてあり、その添削は「適切な改変」ということで、公正使用の日本型モデルとなっています。名和小太郎氏は、俳句作品は著作権を持たない、著作権がなければ著作権の侵害も生じない、という論理を組み立ててしまうことが必要だと主張します。桂三枝氏が創作落語にも著作権がなく、他の噺家が演じてくれば逆にお礼をしなければならぬと言っています。

観光立国セミナー

第80回(2012・10・11海事センター)

オリンパス事件に見る日本人と英国人

山口義正氏（経済ジャーナリスト）

巨額の損失隠しと英国人社長追い出しで世間を騒がせオリンパス事件について語った。山口氏は月刊誌に、この経緯を書き「雑誌ジャーナリズム賞」を受賞、引き続き「サムライと愚か者 暗闘オリンパス事件」という本を講談社で出版した。

山口氏はオリンパス事件に火を付けた人と言われる。同氏は、日本の武士道と英国の騎士道ともに、もともとは「高尚で正直で元気な精神」が根本にあったが、日本では卑怯な人が増えてしまった。オリンパスでは、英国で素晴らしい経営者として知られるウッドフォード氏を社長に迎えたものの、巨大損失隠しを暴かれることを恐れて、武士道精神を失ったような取締役会が社長解任をしてしまったという。

古き良き日本人らしさが失われてきた現在の日本社会の縮図として、典型的なこの事件を取り上げ、「しっかりしろ日本人」と言いたかったようだ。

東京スカイツリーの効果

高野祐次氏（墨田区産業観光部長）

第82回、11月16日（金）海事センターで。今年5月開業した東京スカイツリーの地元経済に及ぼす影響はじめゴミ問題など、光と影を語った。詳細は、J N紙9月号の霞が関情報・阿部インタビューをご覧ください。

12月は、「花園神社」の片山宮司

第83回の観光立国セミナーは、12月14日（金）正午から海事センターで、東京・新宿の「花園神社」宮司の片山文彦氏（J N協会新宿支部長）が行う。

JN協会主催の観光立国セミナーのこれまでの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存してあります。

日本文化だけではなくモーツアルト以前のバロックの作曲家たちも、他の作曲家の音楽を引用することに躊躇はありませんでした。それは引用することは剽窃ではなく、その作曲家に敬意を表すことでありましたから、本歌取りみたいなものであったのでしょう。

いずれにしても著作権の発想はなかったようです。

俳句は数千万人の日本人が参加する著作物表現活動とされ、そこに着目した観光活動が行われるのも当然です。加賀市における俳句を活用した観光政策は、1910年山中温泉で、芭蕉を慕う全国の俳人たちによって芭蕉堂が建てられ芭蕉像が安置されたことにはじまります。1989年に奥の細道三百年記念俳句大会を開催し同記念碑を建立しました。1992年第七回国民文化祭俳句大会を山中温泉で開催しました。1993年に廃業した老舗旅館五明館を2001年加賀市（旧山中町）が買い取り、展観施設「芭蕉の館」として活用しています。1988年、加賀市をはじめ奥の細道とゆかりのある自治体や団体が加入した「奥の細道サミット」が結成され、2002年に山中温泉で開催しております。

×

×

×

東北観光博



へどうぞ！

各地の話題

「東北ぜんぶが博覧会」のキャッチフレーズで、2013年3月末まで東北地方の28ゾーンで、各種のイベント、祭りなどが開かれている。11月は、なんと3000件を超えた。これから行われる案件の、一例を挙げてみるので、ご参考に！

・12月2日「第16回つるりんこ祭」（福島県郡山・磐梯熱海ゾーン）

・2013年1月1日「松島湾元旦初日の出クルーズ」（宮城県松島ゾーン）

・2013年2月11日「わんこそば全日本大会」（岩手県花巻・遠野ゾーン）

・2013年2月16、17日「黒石寺蘇民祭」（岩手県平泉・一関・奥州ゾーン）

12月も、2000件近いイベント、祭り、催しがある。詳しくは「info@visitjapan-tohoku.org」を見て！

石川県と香川県が“握手”

石川県と香川県が、7月に結んだ観光パートナーシップに基づいて、11月から本格的にイベントを繰り広げている。

なぜ、両県が握手するに至ったのか？末尾に「川」が付いている県だからではなさそう。石川県なかでも金沢は、和菓子で知られ、一方、香川県は和菓子に使われる高級砂糖「和三盆」の産地だから、ということらしい。

まずは金沢で開かれた「いしかわスイーツ博」に香川県から和菓子店が出店、11月下旬に高松市で開かれた「さぬきうまいもん祭り」に、石川側が店をだした。

また、両県の魅力を集めた『石川×香川 美の競演』という観光パンフレットを作成、全国でリレー式に開く合同イベントで配布している。

石川県と富山県の境にある「倶利伽羅峠」では、源氏側が平家を破り、香川家の屋島では源義経が平家を滅亡に追いやる事件もあった。ここにも、共通点がありそうだ。

城下町と観光 - 29

群馬県・高崎城

中山道と三国街道が交差する要衝 乾櫓、東門などが残る

JN協会参与 長宗我部友親



上野国高崎はもともと和田氏が支配していた土地である。風雲急を告げていた戦国時代末期の天正18年（1590年）、徳川家康が関東に入った際、家康は重臣の井伊直政に、関東の北側の防備を固める狙いで群馬郡箕輪（みのわ）を与えた。直政は、その郡内にあった中山道と三国街道とが交差する要衝である和田氏の古城を居城と定めて、その周辺の地を高崎と改めた。

ところが、慶長5年（1600年）に関ヶ原の戦いが起こり、井伊直政は徳川家康の四天王の一人として、おおいに戦果をあげた。そこで、敗れた西軍の総帥石田三成の居城であった近江国佐和山18万石をもらうことになり、高崎から佐和山に移った。

NEW SPOT

in japan 35

廃校ギャラリー

東京・外神田、JR御徒町駅近くの閉校した旧千代田区立練成中学校が現代アートの拠「アート千代田3331」に衣替えし、訪れる若者や母子連れらで賑わっている。気軽に文化芸術に触れる機会を作ろうと区が3階建て地下1階の校舎をギャラリーなどに整備し、公募で選んだ芸術系の運営団体「コマンドA」が企画・管理する。同中は戦後1948年開校で2005年に一橋、今川と三校統合で区立神田一橋中学となった。

「3331」は祝いの手拍子、シャシャシャン・シャンのリズムの語呂合わせで下町伝統の気分が浮かぶ。利用者は区と関わるすべての人びととうたい観光客も歓迎という開放施設だ。2010年6月開館から1,000回もの展覧会や催しがあり来場は100万人規模になる。この7月、神楽坂から3331に移った民間画廊MORI YU(モリユウ)

高崎には上野総社にあった諏訪頼水（すわ・よりみず）が入ったが、慶長9年（1604年）には、酒井家次（さかい・いえつぐ）が下総国臼井から入封した。その後、高崎城主は次々と交代して、元和5年（1619年）には、下総國小見川から安藤重信（あんどう・しげのぶ）が入封した。

重信は2代将軍秀忠に仕え、老中職にあった。その後も安藤家が三代にわたって高崎城主をつとめた後、元禄8年（1695年）に、備中国松山に移され、安藤家の高崎支配は終わった。

安藤氏の後には、下野国壬生から松平輝貞（まつだいら・てるさだ）が入り、松平氏が幕末まで、高崎藩を治めた。

高崎城は、領地の南東を流れる烏川と碓氷川が合わさった場所を、自然の要害と見て、その左崖に位置して、築城されている。崖上に堀を掘って本丸を置き、四隅に二層の隅櫓をめぐらせている。

本丸を取り巻いて、二の丸、三の丸を配し、武家屋敷なども置かれている。現在は、三の丸の堀と土居、そして乾櫓、東門などが残っていて、乾櫓は群馬県指定の重要文化財となっている。



都心の廃校が最先端アートの発信拠点「3331」になる

ギャラリーはパリ在住の京都出身画家・黒田アキ個展を開き、地の利もあり来場者は倍増した。

公立学校の廃校は文部科学省まとめだと全国で毎年500校前後もあり現在4,000校ほどになるが、まったく利用されない空き家が3割もあるという。建物の老朽化や財源が無いなどの事情が少なくないが、活用方法が分からない、地域から要望が無い、といった理由が半数を超す。「アート3331」は活用事例だが、区によると5年限りの計画で開館は15年まで。その後は改めて検討するという。ギャラリーが集まる貴重な場はぜひ続けてほしい。（文・写真 林 莊祐）

東京 震が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

今回は今までとは違って観光庁が力を入れている外国旅行者の受け入れ環境整備事業について聞いた。これまでは一人の人に聞いたが今回は観光庁国際観光政策課の廣畑健次・課長補佐（左の写真）と佐藤郁央・係長（右の写真）に話を聞いた。佐藤係長は岐阜県高山市からの出向である。このために高山市の観光の環境整備についてはほかの人以上に力が入っていた。

ー観光庁が24年度に訪日外国人旅行者を受け入れる拠点として東京スカイツリーが開業した押上・業平橋や群馬県・草津など全国で19か所を選びました。どうしてこうした拠点が選ばれたのですか？

23年度にすでに拠点の整備事業と言うものをしていきます。26拠点を選んでいます。全国の観光地から公募で応募してもらっています。やる気のあるところを選ぶというのが狙いです。今年度も公募で選びました。具体的な事業は外国語のパンフレット作りや電話通訳のサービスなどを行います。昨年の京都などの具体的なことは外国人個人旅行者向けへの電話通訳サービスや伝統工芸品に対する情報提供をしています。京都などは戦略拠点で札幌、函館、大阪、福岡など12拠点です。それ以外には平泉、仙台、会津若松、別府、高知などが地方拠点です。現状で多くの観光客が来ているところが戦略拠点で今後観光客が見込まれるところが地方拠点と言うことです。

ー戦略拠点のスカイツリーのある押上・業平橋は具体的に何をするのでしょうか？ 5月23日に開業してすでに大変な人が来ていますが。

今年度選んだ新しい戦略拠点は押上・業平橋のほか成田、名古屋、神戸、広島など合計で5拠点があります。各拠点ではそれぞれの観光関係の人たちが知恵を出し合って訪日観光客が困らないようなことをしてもらうわけです。たとえば岐阜県・高山市では地震が起きた時などのために高山防災地図を作って配っています。英語版や中国語版などもあります。高知市では中国語の観光マップを台湾人向けと中国人向けときめ細かに分けて配っています。押上・業平橋地域もこうしたきめの細かなパンフレットが必要でしょうね。

ー金沢市はきめの細かな旅行案内を作って評判が良いようですが。

英語だけでなくフランス語などのパンフレットも作っています。こうしたパンフレットもフランス人は深い歴史を知りたがり、米国人は現在（のトレンド）を知りたがります。関心のあるところが違うの

で、すべて観光客が満足することは難しいですが、どこに行ったら楽しいかなどの案内は作りたいですね。また、標識なども外国語でわかるようにしていきたいと思います。予算は1か所で二千万円程度なのでそれほどのことはできませんが、ビジット・ジャパン・キャンペーン（V J C）の一環としてこれから力を入れていく事業です。

（聞き手 経済ジャーナリスト 阿部 和義）

「鉄道」と「観光」⑤ 鉄道は観光対象となる

JN協会副理事長 須田寛（JR東海相談役）

鉄道が観光に果たす役割として鉄道そのものが観光資源となる場合が近年目立つようになってきた。その第一は鉄道車両施設等を直接観光対象（資源）とする場合であり、その第二は鉄道の利用（乗車）そのものが観光対象（資源）となる場合である。本編では後者について述べたい。車両施設等の場合を「静態観光」とするならばこのケースは、「動態観光」といえよう。

即ち鉄道は目的地（観光地）へ赴く交通手段としてではなく鉄道への乗車体験そのものが即観光行動となる場合である。

乗車の過程そのものを楽しむ「観光列車」の利用、SL列車等のいわゆる「イベント列車」の利用等がその代表的なものである。

観光列車は乗客減の目立つローカル線の活性化策として、又新幹線開業に伴って増加する観光客の受入体制整備の一環として近年各地で急速に普及し始めた。とくに新幹線開業のあった東北・九州のそれが目立つ。東北では八戸、大湊、津軽、五能等の各線のものが有名だ。車内を改造してサロン風、お座敷風、展望車風等に造作して、楽しい雰囲気演出すること、車内や幹事駅が連携してイベントを開催して乗客に参加して貰うなど趣向をこらしたものが好評である。一部区間では観光列車の乗客がその路線の一般乗客数を上回るものさえ出てきている。又他地域のJR、民鉄や三セク路線にも普及し時刻表に専用ページが設けられるほどだ。

さらにイベント列車の場合「SLけん引列車」「トロッコ列車」（解放式の車両で、風光の秀れた所の眺望を楽しむもの）も各地で運行されている。

これらはAからBまでの移動のためでなく出発地から出発地にそのまま戻る列車もありいわばクルージングを楽しむものである。J R九州では車中泊を伴う2～5日にわたる豪華寝台食堂車で編成する九州一周列車の旅を検討しており、日本のオリエンタルエクスプレスとして話題をよんでいる。このように鉄道と観光の関係はまさにこの両者の一体化にまで発展してきたといえよう。

（注）次回以降は鉄道と観光のかかわりの経緯と今後の展望について述べていきたい。

アメリカこぼれ話 ― 22

「弾劾裁判を受けた大統領」

JN協会理事 北村 嵩

アメリカで唯一、大統領を辞めさせる合法的手段は弾劾裁判である。まず下院が調査してその必要があると認めた場合のみ、上院で裁判が行われ、三分の二以上の賛成によって成立する。「ウォーターゲート事件」でのニクソン大統領は、2年余りの上院及び下院での委員会などの司法の場で、数々の疑惑が明るみに出て、ついに1974年に下院の司法委員会が大統領弾劾決議案を可決した。上院による弾劾裁判が行われることになったが、直前にニクソンが辞任して、結局裁判は行われず、約1ヵ月後に後任のフォード大統領が恩赦を与えて、ニクソンの罪は問われないことになった。

しかし、このケースとは別に、実際に弾劾裁判を受けた2人の大統領が存在する。

1人は1998年のクリントン大統領で 直接国政に関わる問題ではなく研修生との不倫という彼個人の人格に関わる行為が対象で弾劾裁判の結果放免された。もう一人は、あのリンカーン大統領暗殺の後を受けて副大統領から大統領に昇格したアンドリュー・ジョンソンである。リンカーンは南北戦争で北軍の勝利がほぼ確定した1864年の大統領選挙で再選を目指していた。戦争終了後の南北融和を優先して考えたすえ、南部11州が連邦を離脱した際に、唯一辞任せずに留まった南部出身の上院議員であったジョンソンを副大統領に選んだのである。ジョンソンは歴代大統領の中で、最も貧しい家庭環境出身の大統領であるといわれ、学校教育を受けておらず読み書きを若い妻から学んで立身出世した。南部のプーアホワイトの気質を濃く持った人物であり、奴隷制度擁護論者であり、自らも奴隷所有者であった。このように政治的立場も資質も異なるジョンソンが大統領に昇格したことにより、議会多数派の共和党と事あるごとに対立した。

ジョンソンは熱烈な州権主義者で、南部における黒人の扱いは連邦政府（北）ではなく南部自身が決めるべきだと考えており、共和党急進派が提出する南部再建案にことごとく拒否権を発動して関係が悪化した。とうとう大統領が閣僚の一人で、急進派と親交があるスタントン陸軍長官を罷免したのをきっかけに連邦議会の弾劾裁判にかけられることになった。下院は官職保有法違反を理由に大統領弾劾決議を可決した。上院での弾劾裁判の票決では、弾劾に必要な三分の二にわずか一票届かずに否決され、辛うじて大統領職に留まったが、以降残された任期の9ヶ月余りは、議会に完全に無視され、政治生命は喪われた。

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、 団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1－58－13小田急代々木ビル3階

JAPAN NOW観光情報協会(電話03－5304－9500)

会員の投稿を歓迎します～情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2013年01月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は2013年01月25日、投稿締め切りは、01月15日です。

モンテカルロのタベ

小田急電鉄(株)顧問 利光 國夫

以前に小欄に書いたことだが、20数年前私が小田急電鉄の事業部長の時「世界蘭会議」というイベントを担当して、悪戦苦闘したものの結果は大成功となり、そのご苦労代のような形でヨーロッパのレジャー施設視察を名目に10日間ほどの気ままな旅をする機会を得た。

成田を発って先ずウィーンに行き2日ほど滞在してからニースを訪ねたが、地中海に面したホテルからの眺望は素晴らしく、海岸に出るとトップレスの女性があちこちに寝そべっていて、同行の独身の I 君は大いに感激、カメラのシャッターを押しまくるので苦情がでないかと心配しながら何事も付き合い(?)と私も何回かシャッターを押してしまった。

ガイドの女性がコートダジュールをドライブしてモナコに行きましょと勧めるので、世界に名だたるモンテカルロのカジノを体験するチャンスと即賛成した。彼女が手配してくれた真っ白なベンツのリムジンが運転手とともに来たので、これなら他の客にひけをとるまいと意気揚々とモンテカルロに到着、周りを見るとロールスロイス、ベントレーなどが所狭しと留められていて意気消沈となった。

モンテカルロでも最も古く由緒ある「カジノ・ド・モンテカルロ」に入ったが、カメラは禁止で預かられてしまった。一般客用の奥に入場料を払う特別室があり、どうせ来たのだからと数十フランを払って中に入ると、さすがに重厚な雰囲気でも客もそれほど多くはないが、懐具合は我々とは雲泥の差がありそうだ。ルーレットの周りが空いていたので早速挑戦することにして、私の生年月日の順に13の目にチップを置いたが、なんとこれが的中、次に3に置くとこれまた的中、続いて17に置くと有るまいことにこれもち中、おもわず万歳三唱したくなったが、日本人の面目に拘わると必死に笑いをこらえてチップをかきあつめた、といっても元手が僅かだからたいした金額ではないが、20万円以上の儲けである。こんなことは確率的に続く訳が無いと思ってただちに止めてバーに直行、同行の連中と祝杯をあげた。

私は確率論には疎いけれど、あれはよくいう「ビギナーズラック」だったのか、先ず甘い汁を吸わせてから巻き上げる罠なのか今でも時折り考えることがある。いずれにしても何事も引き際が大事というべきだろう。

中国からの訪日者が激減

尖閣諸島国有化による関係悪化が原因？

日本政府観光局（JNTO）の調べによると、今年10月に日本を訪れた中国人は、7万1000人と2011年10月に比べ33.1%もの大幅減となった。

昨年3月の東北大震災、津波、原発事故の影響で、2011年の訪日外国人は、大きく落ち込んだ。その後、今年に入って順調に復活、過去最高だった2010年の861.1万人に迫る勢いを見せていた、

中でも、中国からの観光客は8月までは急増し、訪日客数トップの韓国を脅かすほどだった。そこへ、尖閣問題が発生し、中国からのツアーは次々と中止、航空路線も休止が出る有り様となっている。

ちなみに、韓国からの訪日客も13.2%の大きな落ち込みで、円高の影響もあろうが、ここでも竹島問題が影を落としているようだ。

駅名はあるのに「大聖寺」が無い不思議

加賀フォーラム・観光に参加して感じたこと

JN会員 真夏 八五郎（河村 武）

10月22日（月）、石川県加賀市で開かれた「観光立国フォーラムin加賀」に参加し、翌日、JN協会の理事である寺前加賀市長のお世話で、近辺の名所旧跡を見せていただいた。まさに、加賀温泉郷はじめ加賀市一帯は、観光資源の宝庫だと実感した。

そんな中で、私が不思議に思い関係者にもあれこれ尋ねたが解明しきれなかったのが、『大聖寺』である。加賀市役所は、北陸本線の大聖寺駅のすぐ近くにある。

ところが、この駅名にもなっている『大聖寺』と言う寺院は現在には存在していない。何時建立され何時消えたのか不明であり、開山が何宗の僧なのか、未だに特定されていない。だが、加賀藩の三代目藩主前田利常が隠居して三人の子に領地を分与した際に、長男が加賀藩、次男が富山藩、三男の利治が『大聖寺藩』として統治することになった。

この大聖寺藩が現在の加賀市の中心部を占めている。利治は、その城に地名を付けずに『大聖寺藩』としたのである。ところが築城する時からすでに大聖寺そのものの跡地すら不明なのに、藩の城は『大聖寺藩城』と云われるようになったようだ。

それがために、その城が無くなっても、そこには『大聖寺藩城趾』という石碑があるのだ。

さらにこの加賀市の真ん中を流れているのが市内南方にある大日山を源流とする『大聖寺川』だ。

C O L U M N

「死海」のほろ苦い体験

地球上にはいくつかの塩水湖がある。その中で世界的に最も知られているのが、かの「死海」である。地勢上はアフリカ大地溝帯の北端とされている。ヨルダンとイスラエルの中部国境地帯に位置して、その両国が領海を分ち合っている。なだらかなドライブウェイを吸い込まれるように下り、シー・レベル（海拔0m）を通過し、辿り着いた海拔マイナス418m地点に天下の「死海」は姿を表す。

そこは年間を通して20～39℃と高温で降雨量が少ないため、水分が蒸発し塩分が濃くなったと言われている。通常海水の塩分濃度は3％であるが、「死海」の塩分は約30％で、10倍も濃いため特殊な海藻以外の生物は棲息出来ず、その海水には人体が自然に浮上する浮力もある。

この「死海」の特産品として、クレオパトラが好んだとされる泥に含まれたミネラルが美容に良いとされ、その「泥パック」が日本でも一般に市販されている。だが、この「泥パック」が本当に美容に効果があるのだろうか。濃すぎる塩分が皮膚を傷めることになりはしないか、些か気になっていた。

「死海」滞在中に30分以内と制限されて海水に入った。すると、あらっ！不思議。本当に足の方からふっと浮いてくるのだ。だが、身体が思いのほか自由にならず、抜き手を切って泳ぐというわけにはいかない。まるで操られているような不思議な錯覚に陥る。シャワーをたっぷり浴びてそのまま旅を続けた。ところが、その夜になって急に体調がおかしくなった。眠っていた「痔」病を目覚めさせてしまったのだ。濃い塩分が身体に良くなかったようだ。直ぐ国際電話でかかりつけの医師に相談すると、臨機の処置を教えてくれ、一刻も早く専門医に診てもらった方が良いとのご忠告により、日程を繰り上げ帰国して、専門医院に直行した。塩分は痔主や皮膚病患者には要注意のようだ。

肛門科医師の見立てでは、濃い塩分が身体に入って患部を刺激したのだろうとの話だった。生物も棲めないような特殊な環境では、万物の霊長たる人間様とてとても無事とはいかないものだ。

30%の塩を軽く舐め、強い塩水のうがいでお茶を濁し、浮遊する健康人間を静かに見て楽しみ、話の種にするだけで佳しとする方が賢明というのが、体験学習で学んだ处世術のひとつである。

観音寺、四天王寺、泉岳寺・・・、全国に『寺』の付く駅名は数えれば何百もあるろう。そしてその駅名の通りの寺院がその地にあるのが当然だが、加賀市の大聖寺は駅名に使われていてもその寺はない。川名に使われていてもその寺はない。

何とも奇妙で、歴史の謎に直面し、ここを訪れた客は肩透かしを喰らった思いではないだろうか？で、思ったものだ。加賀市民の中で、『大聖寺』そのものの再建に立ち上がる篤志家は現れないのだろうか？

会員消息 ★ 北出氏が朝日新聞「ひと」欄に登場

10月23日の朝日新聞朝刊「ひと」欄で、「北出明」さんが紹介された。北出氏はJN協会の観光立国セミナー（2月10日）で講演、その概要を本紙3月29日号にも掲載している。

ナチスドイツの魔手を逃れようとしたユダヤ系難民の脱出を助けたJTB（氏は同社OB）の話、さらに脱出劇に関係した人たちを探して世界を歩き回っている姿が『命のビザ、遙かなる旅路－杉原ビザを陰で支えた日本人たち』（交通新聞社新書）で詳しく描き出されています。

★ 近藤理事のブログが2000回に

JN協会の理事・近藤節夫さんは、2007年5月からホームページ「知の狩人 旅の狩人」を開設、以来一日も休まずブログを書き続け、このほど2000回に達した。同氏は、「日本ペンクラブ」の会員でもあり、166か所の世界遺産を訪ねたことでも知られる。その一端は、下欄の「COLUMN」でも、うかがうことができよう。目下、その集大成ともいえる著作に取り掛かっている。



左下の人物が筆者